



大迫利光
口腔外科部長

て、標準治療を確実に進めるとともに、新たな治療導

医療
やまし
な

最前線

県立中央病院から
〈282〉

口腔外科は主に口の中に原因がある病気の外科的治療を行う。山梨県立中央病院は口腔がんに対応してい

入に向けた取り組みを視野に入れている。

同院口腔外科部長の大迫利光歯科医師によると、口腔外科で取り扱う病気は、あごの骨の変形のために歯のかみ合わせに異常を生じ

県内で口腔外科を設けている病院は同院を含め6施設ある。歯科診療領域ではあるが、虫歯や歯周病などの治療を担う地域の歯科クリニックとは明確に役割が分かれているという。

口腔がんを専門とする大迫利光歯科医師は「まずは標準治療を確実に進めることが大切」と強調する。今年4月、同院が「がんゲノム医療拠点病院」になったことを念頭に「患者の協力を得ながら症例を蓄積して臨床応用への道を模索したい」

と、がんゲノム医療を軸とした研究を意識する。このほか、同院は県内の中核病院として医科歯科連携の強化を目指す。大迫利光歯科医師は骨粗しょう症の治療薬を例示。薬剤によっては投与後に抜歯などの出血を伴う処置を行うと、骨髄炎や顎骨壊死などが起きる場合があり、あらかじめ、かかりつけの歯科クリニックで口腔内の検査を行うことが望ましいという。大迫利光歯科医師は「地域の歯科医師と院内の医師の連携が欠かせない。橋渡し役としての役割を果たしていきたい」と話している。

る「顎変形症」や歯の外傷のほか、口腔内の粘膜疾患、あごの骨の炎症など幅広い。最も多い患者は、地域の歯科クリニックから紹介状を受けて行う「親知らず」の抜歯。入院し、全身麻酔で行うケースもある。

同院はがん診療連携拠点病院として口腔がん治療に力を入れる。口腔がんはがんを切除する外科的治療が適応になる場合が多く、がんの大きさや場所によって

は放射線治療も選択肢に入る。一方、がんの原因となる遺伝子変異を調べ、見つかった変異に合った薬を探す「がんゲノム医療」が広がっているが、他領域のがんに比べて遅れているのが実情だ。

口腔がんを専門とする大迫利光歯科医師は「まずは標準治療を確実に進めることが大切」と強調する。今年4月、同院が「がんゲノム医療拠点病院」になったことを念頭に「患者の協力を得ながら症例を蓄積して臨床応用への道を模索したい」と話している。